

ひょうご伝説紀行

- 語り継がれる村・人・習俗 -

松王丸

清盛の夢と神戸の海に沈んだ少年



伝説 松王丸
清盛の夢と神戸の海に沈んだ少年

紀行 平氏伝説の旅
～大輪田泊と、福原京から煙島まで～
・大輪田泊と清盛の夢
・築島寺と松王丸の供養塔
・夢幻の福原京
・須磨の平氏
・絵島と煙島

関連情報 用語解説
参考書籍
所在地リスト

松王丸

清盛の夢と神戸の海に沈んだ少年

平氏（へいし）が、たいへん栄えていたころの話です。平清盛（たいらのきよもり）は、兵庫に都を移して、中国の宋（そう）と貿易をしようと考えていました。そのためには、大きな港が必要でした。

そのころの兵庫の港 大輪田の泊（おおわだのとまり）と呼ばれていました。北風は六甲（ろっこう）の山並みにさえぎられ、南西の風は和田岬（わだみさき）にさえぎられていましたが、南東からの風は防ぐものがなく、この向きから大風がふくと、船が出入りすることもできませんでした。清盛は、ここをもっと安全な港にしようと考えたのです。

南東からの風や波を防ぐためには、港のおきに島を築いて防波堤にするしかありません。そのため、会下山（えげやま）の南にあった塩樋山（しおづちやま）を切りくずして、その土砂を海へ運ぶことになりました。

しかし、機械の力もない時代です。仕事はなかなかかどりません。深い海に土砂をうめて、あと少しというところまでくるのですが、そのたびに潮に流されてしまいます。どうすれば工事がうまくゆくのか。清盛は陰陽博士（おんみょうはかせ）に占わせてみました。

「島を築くには、海中の竜神の怒りをしずめなくてはならない。そのためには、三十人の人柱を、海にしずめて竜神に供えとよいだろう。」

これが占いの答えでした。

清盛はさっそく、生田（いくた）に関所を設けて、人柱にするために旅人をつかまえ始めました。つかまえられた人たちや家族の泣き声が、和田の松原にひびきわたったといいます。

清盛には、そば仕えの少年が何人かいました。その中のひとり、讃岐国（さぬきのくに）の武将の子、松王丸（まつおうまる）という十七歳の少年は、つかまえられた人たちの悲しみを見かねて、清盛に言いました。

「人柱などというむごいことは、おやめください。私が三十人の身代わりになりましょう。」

はじめ、清盛は聞き入れませんでした。けれども松王丸はあきらめず、何度も何度もくり返し、清盛にうったえました。

ついに、清盛も松王丸の申し出を聞き入れました。松王丸は、石の櫃（ひつ）に入れられ、白馬の背に乗せられて港へと運ばれました。そして、千人の僧侶の、読経（どきょう）する声がひびく中で、海の中へとしずんでいったのです。

人々は涙を流しながら、お経を書き写した大小さまざまの石を海へ投げ入れました。

こうして、波を防ぐための島は完成し、「築島（つきしま）」と呼ばれました。たくさんのお経をしずめたので、「経ヶ島（きょうがしま）」とも呼ばれます。

その後清盛が築島の完成を祝ったとき、西にそびえる高取山の山頂からわき上がった紫色の雲が、築島の上をおおい、美しい楽の音とともにたくさんの仏が現れました。その中に松王丸の姿もありました。やがて松王丸の姿は、如意輪観音（にょいりんかんのん）へと変わり、金色の光を放ったといいます。

清盛は、松王丸をとむらうために、この地に寺を建てました。それが、経島山来迎寺（きょうとうざんらいこうじ）のはじまりだそうです。その境内には、今でも松王丸の供養塔（くようとう）が残っています。

紀行「平氏伝説の旅 ～大輪田泊と、福原京から煙島まで～」

大輪田泊と清盛の夢

平氏（へいし）一門が隆盛を極めたころ 平氏にあらずんば人にあらずと言われたころ、平清盛（たいらのきよもり）は、大輪田泊（おおわだのとまり）の大規模な修築を計画した。そのねらいは宋（そう）との貿易にあったのだろうが、同時に港に近い福原（ふくはら）への遷都まで企てたということは、今風に言うなら、港を中心とした国際貿易都市の建設こそが、清盛の夢だったのだろう。

その夢を実現させるのに必要だったのが、人柱としての松王丸（まつおうまる）だった。この伝説は、事実を映しているのだろうか。だとすると、あまりにも悲しすぎるけれど、この話を聞かされたなら、人々は少年の魂に報いるため懸命に働いただろう。泊の修築は、それほどまでに想像を絶する難工事だった。松王丸の伝説が事実なのかどうかは知るすべもないが、伝説が清盛の偉業とともに、神戸港の歴史を縁取っていることは間違いない。



六甲山から兵庫津を望む



摂津名所図会

築島寺と松王丸の供養塔

築島寺（つきしまでら）とは通称で、正式には経島山来迎寺（きょうとうざんらいこうじ）という寺号をもつ。縁起によると、寺院建立の目的が人柱となった松王丸の菩提（ぼだい）を弔うためであったことから、二条天皇の勅命によって、特に寺院建立の前にその号が与えられたのだという。



摂播記



神戸覧古

有馬街道（ありまかいどう、国道428号線）を下りてくると、JR線の下をくぐって国道2号線と交差する。さらにそのまま海へ向かうと、東はハーバーランド、西側には造船などの重工業の工場が建ち並んでいる。このあたりは、海へ向かって三角形に突き出した、半島のような地形になっている。その半島の西側の付け根に近い神戸市兵庫区の島上町（しまがみちょう）に築島寺がある。

阪神淡路大震災では大きな被害を受け、現在は鉄筋コンクリート造りの本堂に建て替えられているが、門を入ってすぐ右の境内には、松王丸を供養する石の塔が残っていた。白らかに明るい境内にひっそりと建つ古い塔は、まるで時の流れに取り残されたかのようなのであるが、今でも時折、この塔を訪れて熱心にお経をよんでゆく人がいる。その傍には、清盛の愛妾（あいしょう）だった妓王（ぎおう）、妓女（ぎじょ）という姉妹の小さな五輪塔が、ひっそりとたっている。

考えてみれば松王丸は、その後の平氏没落や、湊川（みなとがわ）の戦い、開国の激動、神戸大空襲、そして阪神淡路大震災など、この地で起きた災いや事件をことごとく見てきたのだ。そして今も港のどこかで、神戸の平安を念じているはずである。



松王丸供養塔



妓王妓女の墓



築島寺



境内に建つ石塔

夢幻の福原京

清盛の都は、彼の死とともに幻のように消え去って、かつての栄華を示すものは何一つ残っていない。住宅やビルが建ち並ぶ現在の神戸に残るのは、華やかだった過去をひっそりと伝える故地だけである。

荒田八幡神社

神戸大学病院の正面あたりで有馬道から西へ折れると、荒田八幡神社（あらたはちまんじんじゃ）がある。神社の境内だけが、まわりの家々より3mばかり高く、周囲は石垣に囲まれている。ここが平清盛の異母弟、平頼盛（たいらのよりもり）の山荘があったとされる場所である。神社の横は公園になっていて、山荘をうかがわせるものは何もないけれど、かつてはこのあたりで笠懸流鎧馬（かさかげやぶさめ）がおこなわれたと記されているから、相当広い屋敷であったことだろう。



荒田八幡神社



荒田八幡神社

平野祇園神社

荒田八幡神社から有馬道を北へたどると、間もなく六甲山の山すそである。ここが平野（ひらの）の交差点で、そこからさらに登ったところに、平野祇園神社（ひらのぎおんじんじゃ）がある。社伝によるとこの神社は、9世紀に姫路の広峰神社（ひろみねじんじゃ）から、京都の八坂神社（やさかじんじゃ）へ分霊する途中、その神輿（みこし）が泊まった場所に建てられたという。

急な階段を上り詰めた境内からは、尾根の間に切り取られた町並みと、その先の海が見える。平清盛は大和田泊を修築する前、この神社の裏山にあった潮音山上伽寺（ちょうおんざんじょうがじ）で、潮騒を聞きながら構想を練ったというが、今はその跡すら見ることはできない。



平野祇園神社から海を望む



平野祇園神社



平野祇園神社



平野祇園神社

平野の交差点付近は、ちょうど清盛の時代の遺跡である。平成5(1993)年に、平野祇園遺跡が発掘されて、貴族の館の庭園だったということがわかった。

ここでみつかったのは、石組みの池跡である。傍には広大な貴族の館があったのだろう。発掘調査では、大量のかわらけ（土師器の皿）や中国産の高級な陶磁器が出土したが、建物跡はまだ確認されていない。ことによるとこの場所で、清盛も曲水の宴（きょくすいのうたげ）を楽しんだかもしれない。

雪見の御所

平野の交差点から西へ200mほど、商店が並ぶ通りを歩くと湊山小学校（みなとやましょうがっこう）がある。その一角に、「雪の御所」という石碑が建つ。かつてこの付近では瓦などが見つかっていて、清盛が住んだ雪の御所があった場所だと言われているが、ここにも往時をしるものはない。

北野天満神社

観光客でにぎわう、中央区北野町の異人館街を抜け、急な坂と階段を上り詰めたところに北野天満神社（きたのてんまんじんじゃ）がある。この神社は、清盛が福原に都を移した際に、その鬼門方向を鎮護するため、京都の北野天満宮から勧請（かんじょう）した。神戸の中心街から、港までを一望できる眺望は素晴らしい。すぐ前には異人館の風見鶏が見え、神社の歴史と異国風の町並みが、不思議に調和した空間になっている。



雪見の御所石碑



北野天満神社参道



北野天満神社

北野天満神社から
神戸市の中心街を見る

清盛塚

築島寺から、新川運河（しんかわうなが）に沿って500～600mほど西へ行った場所に、清盛塚がある。塚と呼ばれてはいるが、残されているのは高さが8.5mほどの13重の石塔である。清盛の死後、鎌倉時代に建てたものとされ、江戸時代の絵図にも登場している。

塔は、もとあった場所から10mほど北へ移動させられており、移動の際に地下部分も発掘されたが、墓ではないことが確認された。



清盛塔

本当に不思議なことだが、実は清盛の墓の場所はわかっていない。1181年に京で亡くなった清盛の遺骨は、福原へ持ち帰られたという。兵庫区の能福寺（のうふくじ）にはその廟所（びょうしょ）があるが、墓がどこ造られたのかはわからないのだ。夢幻に終わった福原京と同じく、清盛もまた幻のように消えたのである。



清盛塔



説明板

須磨の平氏

須磨(すま)は、平氏が再起をかけて戦った、一ノ谷の合戦がおこなわれた場所である。平敦盛(たいらのあつもり)と熊谷直実(くまがいなおざね)の一騎打ちは、『平家物語』の名場面のひとつとして知られているが、須磨のあたりには平氏にゆかりの場所が多い。

須磨寺の敦盛塚

須磨寺には、敦盛の首塚がある。本堂前から書院の北を通って奥の院へと続く道の傍らにある、堂の中に祭られた小さな五輪塔がそれである。笛の名手であった敦盛にちなんで、かつてはここに笛を納めて、子供の健康を祈る風習もあったということだ。また、本堂の前には、敦盛の首を洗ったという池、そのわきには、その時義経が腰掛けたという松の枯れた株が残されている。



須磨寺の門



敦盛首塚の五輪塔



梵鐘の銘



敦盛首洗いの池



義経腰掛の松



敦盛首塚堂

腕塚

長田区の新長田駅から、国道2号線を越えた所が腕塚町(うでづかちょう)である。一ノ谷の合戦で敗れた平忠度(たいらのただのり)が、源氏の武者に討たれたとき、切り落とされた腕を葬った場所だという。その腕塚は、駒ヶ林町(こまがばやしちょう)4丁目の住宅街にあった。人ひとり通れるだけの、細い路地の中ほどに、「腕塚堂」と記された堂と、十三重の石塔がある。また500mほど南西の野田町8丁目には、忠度の胴塚があって、やはり十三重の石塔が祭られている。

平氏に関する旧跡や伝承地は、神戸市内には他にいくつも残されている。「おごる平氏」などと、悪評が流布されたこともある平氏だが、地元の人たちにとっては神戸のいしずえを築いた敬愛すべき一族であり、大切な歴史の一部として守り伝えられている。



腕塚堂への路地



腕塚堂道標



十三重の塔

絵島と煙島

福原を失い、戦いにも敗れた平氏は、四国目指して落ちてゆくことになる。その途上ということになるのだろうか、淡路(あわじ)にも平氏に関係する古跡が残っている。

淡路の北端、岩屋(いわや)の絵島(えじま)には、松王丸の供養塔が建てられている。そして南端の福良湾(ふくらわん)に浮かぶ煙島(けむりじま)には、敦盛の首塚がある。



煙島曙光

福良漁港から、湾に沿って1kmほど南西

へ向かうと、深緑の木々に覆われた、小さな島が見える。これが煙島である。岸からはほんの100mほどだろうか。島の周囲には粗い岩肌が見える。平氏一門が阿波に渡る前、福良湾で休んでいるときに、敦盛の首がもたらされたので茶毘(だび)に付した。その時に煙が立ち上ったことから、島の名がついたという。島の頂上には、敦盛の首塚がある。若くして散った敦盛は、落日の平氏の中でひとときわ光彩を放ち、敵味方なく惜まれたのだろう。



福良湾と煙島



煙島

用語解説

【大輪田泊】おおわだのとまり

奈良時代に、僧行基が築いたと伝えられる摂播五泊（河尻・大輪田・名寸隅（なぎすみ）・韓・室津）のひとつ。平安時代末に、平清盛が港の前面に経ヶ島を築造して、風波にも安全な港とした。中世以降は兵庫津と称される。古代から続く瀬戸内航路の重要な港であり、現在の神戸港の原型といえる。

【来迎寺（築島寺）】らいこうじ（つきしまでら）

神戸市兵庫区島上町にある浄土宗の寺院。経島山（きょうとうざん）と号する。大輪田泊築港との関連から、築島寺と呼ばれている。大輪田泊修築に際し、人柱となった松王丸の菩提を弔うため、平清盛が建立したと伝えられる。創建時の所在地は、兵庫区三川口町付近という説がある。創建時には七堂伽藍（がらん）を誇ったとされるが、1335年の湊川の戦いで兵火に遭ったのをはじめ、幾度かの火災を受けて現在地に移転したという。さらには1945年の神戸空襲で、堂宇一切を焼失し、戦後再建されて現在に至った。

境内に松王丸の供養塔、平清盛の愛妾（あいしょう）であったという妓王、妓女の墓が祭られている。

【平野祇園遺跡】ひらのぎおんいせき

神戸市兵庫区の平野交差点付近に広がる遺跡。1993年に発掘調査がおこなわれ、貴族の庭園と考えられる石組みの池跡が見つかった。周辺からは大量の土器をはじめ、瓦、中国産陶磁器類も出土したが、建物跡はまだ確認されていない。福原京の一部を形成していた、平氏一門の邸宅などと関連が深いと思われる。

【福原京】ふくはらきょう

平安時代末のわずかな期間、現在の神戸市兵庫区に置かれていた都。平清盛は、1180年6月にこの地へ遷都したが、実質的な都の造営はおこなわれず、同年11月に再び京都へ戻った。1183年に平氏が都落ちした際、福原は焼き払われた。

【北野天満神社】きたのてんまんじんじゃ

神戸市中央区北野町にある天満神社。福原遷都に際して平清盛の命により、新都の鬼門鎮護のために京都の北野天満宮を勧請（かんじょう）して、社殿を造営したのがはじまりとされる。

中世にはしばしば戦乱に巻き込まれ、湊川の戦いや、応仁の乱の際の兵庫津焼き打ちなどでも被害を受けたという。また織田信長による中国攻略の際には、毛利氏と結んだ荒木村重配下の花隈城に近かったため激戦に巻きこまれた。

江戸時代以降は北野村の鎮守として崇敬された。明治時代になり、神戸港周辺の外国人居留地が返還されると、神戸在住の外国人が北野町付近に館を構えるようになり、現在の異人館街が形成された。

【清盛塚】きよもりづか

神戸市兵庫区にある、「平清盛の墓」と考えられてきた石製十三重の塔。弘安9（1286）年の年号が刻まれており、鎌倉時代、北条貞時が諸国を巡行した際に建てたと伝えられている。塔は、かつて現在よりも11m南にあり、古くから清盛の墓として信仰の対象となってきた。1923年に道路拡張のため現在地に移転した際、塔周辺の発掘調査が実施されたが、墓の跡は発見されなかったため、供養のための石塔であったと考えられている。

【平清盛】たいらのきよもり

平安時代の武将（1118～1181）。保元の乱（1156）で後白河天皇の信頼を得、平治の乱（1159）では源義朝を討って平氏の権力を確立した。1167年には武士として初めて太政大臣に任ぜられ、娘徳子を高倉天皇の中宮とした。

やがて後白河法皇と対立すると、1179年には法皇を鳥羽に幽閉して、院政を停止させるに至る。清盛はさらに高倉天皇を退位させて、自らの孫である3歳の安徳天皇（1178～1185）を即位させた。これにより、清盛の完全独裁化による平氏政権が成立。平氏の知行国は全国の半分を超え、一門の公卿（くぎょう）16人、殿上人30人余。

「平氏にあらずんば人にあらず」と言われる全盛時代となった。

しかし平氏への権力集中は、旧勢力との対立や地方武士の離反を招く要因となり、1180年には、後白河法皇の皇子以仁王（もちひとおう）を奉じた源頼政の反乱が発生した。この反乱は鎮圧され、以仁王と頼政は敗死したが、以仁王の令旨（りょうじ、皇子による命令文）は全国へ飛び火し、同年夏には、源頼朝が北条氏と結んで挙兵した。平氏軍が頼朝軍の鎮圧に失敗（富士川の戦）すると、近畿でも寺社勢力を中心に反平氏の動きが強まった。このため清盛は、興福寺などを中心とした南都を焼き討ちしたほか、近江、美濃などに派兵して源氏勢力を鎮圧した。しかし反平氏勢力の蜂起はおさまらず、1181年には平氏の基盤である西国でも諸豪族が挙兵。また平氏方であった東国の豪族が頼朝によって討たれるなど、反乱が深刻化することになった。清盛はこうした危機のさ中、熱病（マラリアともいわれる）にかかり、京都で没した。

清盛の墓は、京都、神戸など数か所にその伝承があるが、確定されていない。

【平敦盛】たいらのあつもり

平安時代の武将（1169～1184）。平経盛（つねもり）の子。一ノ谷の戦いで、源氏の熊谷直実と討たれた。横笛の名手といわれる。若くして悲劇的な死をとげたため、謡曲や歌舞伎などの題材となり著名である。敦盛にまつわる伝承は多く、「首塚」とされるものは須磨寺境内のものが代表的。

【平頼盛】たいらのよりもり

平安時代の武将（1131～1186）。平忠盛の五男。清盛の弟。通称は池殿、池大納言。平治の乱の時、生母の池禅尼が少年だった源頼朝の助命を清盛に嘆願した事により、平家滅亡後も本領を安堵（あんど）された。また、後白河法皇の信頼が厚く、法皇の処遇を巡って頼朝挙兵以前から兄・清盛とは不仲だったという。

高倉上皇（安徳天皇の父）の『巖島御幸記』に「申の刻に福原に着かせ給う云々、あした（あらたの誤りと思われる）という頼盛の家にて、笠懸流鏑馬（かさがけやぶさめ＝馬上で駆けながら矢で笠を的にしたものを射ること）など仕つらせ御覧ぜられる。」と記しているの、荒田町にあった頼盛の山荘は、相当広い邸内であつたらう。

【絵島・大和島】えしま・やまとしま

絵島は、岩屋港の東に浮かぶ島である。『枕草子』にも、「島は」と記されているほど、古くから知られた名勝であったようだ。砂岩が浸食されてできた奇観であるが、この岩盤はおよそ1500万年前に、砂や礫（れき）が水中に堆積してできたものである。

その奇観のためか、国産み神話の「おのころ島」を、この絵島にあてようとする説もある。古来より名勝として人々に親しまれており、月見の名所として『平家物語』に出てくるなど、風光明媚な場所として多くの文学にとりあげられている。

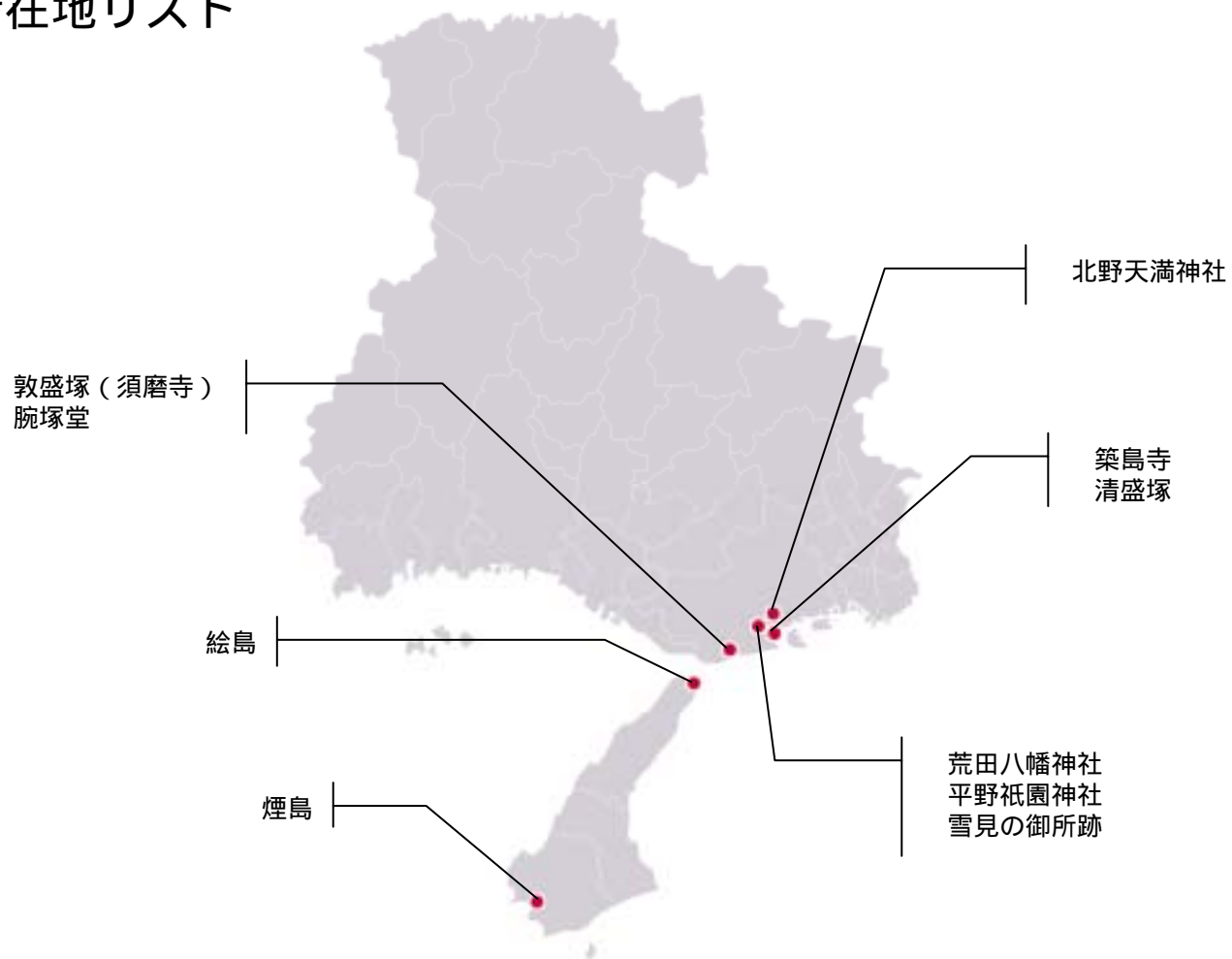
絵島の頂上には、平清盛が大輪田泊を修築した時に、人柱にされようとした人たちを助け、自らが人柱になった松王丸の供養塔といわれる宝篋印塔（ほうきょういんとう）が建っている。近年は、毎年、中秋の名月の夕べに、「絵島の月を愛でる会」がおこなわれてにぎわう。

絵島の南には、陸続きの小島があり、大和島と呼ばれている。山上にはイブキ群落があり、兵庫県の天然記念物に指定されている。

参考書籍

	書籍名	刊行年	編著者名	発行者
伝説	伝説の兵庫県	2000	西谷勝也	神戸新聞総合出版センター
歴史・文化等	兵庫のふるさと散歩1．神戸・阪神・三田編	1978	兵庫のふるさと散歩編集委員会	神戸新聞出版センター
	兵庫県大百科事典（上・下）	1983	神戸新聞出版センター	神戸新聞出版センター
	新版神戸の伝説	1998	田辺真人	神戸新聞総合出版センター
その他	築島寺 参拝者用資料	不詳	築島寺	築島寺

所在地リスト



築島寺	神戸市兵庫区島上町42
荒田八幡神社	兵庫県神戸市兵庫区荒田町3-15
平野祇園神社	神戸市兵庫区上祇園町12-1
雪見の御所跡	神戸市兵庫区雪御所町2-1
北野天満神社	神戸市中央区北野町3-12
清盛塚	神戸市兵庫区切戸町1
敦盛塚 (須磨寺)	神戸市須磨区須磨寺町4-6-8
腕塚堂	神戸市長田区駒ヶ林町4-6
絵島	淡路市岩屋
煙島	南あわじ市福良 (福良湾南西部)

ひょうご歴史ステーション「ひょうご伝説紀行」は、兵庫県立歴史博物館により管理・運営しております。サイトで使用するテキスト・画像などのコンテンツ全般の著作権は当館に帰属し、無断での複写・転用・転載などを禁止いたします。

ひょうご伝説紀行

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~rekihaku-bo/historystation/legend/>

編集発行 兵庫県立歴史博物館

〒670-0012 兵庫県姫路市本町6-8 0792-88-9011

第1刷 2007年4月1日